

乾癬の最新治療

③ 生物学的製剤

東京慈恵会医科大学皮膚科学講座 梅澤 慶紀, 朝比奈昭彦

KEY WORDS

- 乾癬
- 乾癬性関節炎
- TNF阻害薬
- IL-17阻害薬
- IL-23阻害薬

Biologic treatment.

Yoshinori Umezawa (教授)
Akihiko Asahina (主任教授)

はじめに

生物学的製剤(以下、バイオ)は、わが国では2010年に使用が開始され、乾癬治療に大きな変革をもたらした。2021年時点で、使用可能なバイオは10種存在する。その使用は、「乾癬における生物学的製剤の使用ガイダンス(2019年版)」¹⁾や「乾癬性関節炎診療ガイドライン2019」²⁾に基づき行われている。バイオは、乾癬の病態に重要な役割を果たすサイトカインの作用を抑制することで効果発現する(図)。主標的とするサイトカインによって、主に3系統(TNF阻害薬、IL-17阻害薬、IL-23阻害薬)に分けられる。

バイオの利点は、①高い有効性を認めること、②臓器障害の頻度が低いこと、③従来の治療で難治であった重症例、難治例に有効性を認めること、④投与回数が少なく、利便性が高いこと、などがあげられる。また、従来の治療法は、医師の経験差によって「さ

じ加減」があり、担当医によって効果の差異を認めることも少なくなかった。しかしながら、バイオでは用量・用法のプロトコールが決まっており、バイオ治療の効果の差異は医師間でほとんど認めない。今後のバイオ治療の課題の1つは、個々の症例に合ったバイオをいかに選択するかである。本稿では、各バイオについて、臨床試験結果と治療経験に基づき、各薬剤の有効性、特徴、課題について概説する。

I. TNF阻害薬

TNF- α は、乾癬の皮疹部および関節炎部では、樹状細胞から主に産生され、表皮細胞、Tリンパ球、単球、血管内皮細胞など、種々の細胞に影響を与える。また、TNF- α は脂肪細胞から産生されるアディポカインの1つでもあり、乾癬マーチ³⁾を促進させる因子の1つである。TNF阻害薬は心血管系イベントを軽減させ⁴⁾、全身性炎